

私が鉄道車両の利用者から研究者になったとき、まず車両の大きさに圧倒されました。利用者としては、車内や扉しか見えていなかったのですが、車両を支える台車、大きな車体など、車両のそばに立って地面から眺めると想像以上に大きいものでした。このような大きな鉄道車両が安定して走り続けるということは、多くの高度な技術の集積があることなのだろうと感じました。

さて、本号の特集では「車両試験台」を取り上げました。

昨年、東海道新幹線は開業50周年を迎えましたが、車両試

験台は、鉄道車両の高速化や安定して走り続けることに大きな役割を果たしてきました。そして、本号で紹介したように、車両試験台は車両の研究開発に不可欠な試験装置として、今も進化し続けています。今回、車両試験台の特集を組むに当たり、製造当時の検討資料を見る機会があり、試験台を造って来た偉大な先人の努力に、あらためて敬服しました。

次号の特集は「鉄道ダイナミクスのシミュレーション」です。鉄道に関わるいろいろな分野のシミュレーションの研究成果を紹介する予定です。どうぞご期待ください。(T.Y.)